

地区特性図



海岸堤防整備

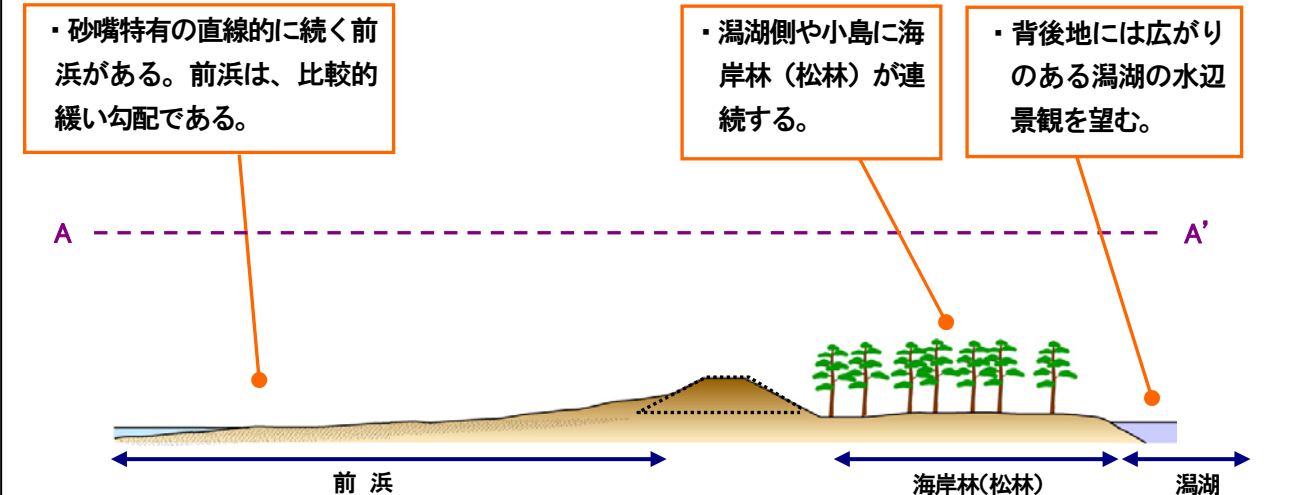
- 凡例
- 役所
 - 神社・仏閣
 - 鉄道駅舎
 - 主要道路
 - 地形による景観特性
 - 被災による景観変化
 - 施設の景観特性

景観特性

- ・砂嘴は、周囲が水域の開放感のある空間であり、直線的に続く幅広な前浜が特有の景観を形成する。
- ・海岸堤防は内陸からはほとんど視認できないため、砂嘴上から直線的に続く堤防軸方向の景観と、それらを近景で望む視点が重要となる。
- ・直線に長く続く構造物の出現により、単調な景観となる。
- ・観光コースとして利用性が高く地域のシンボルとなる空間であり、砂嘴という地形を活かした広がりのある景観を視覚的に活用することが望まれる。

地形基盤と地域の成り立ち

地形断面図（A-A'）

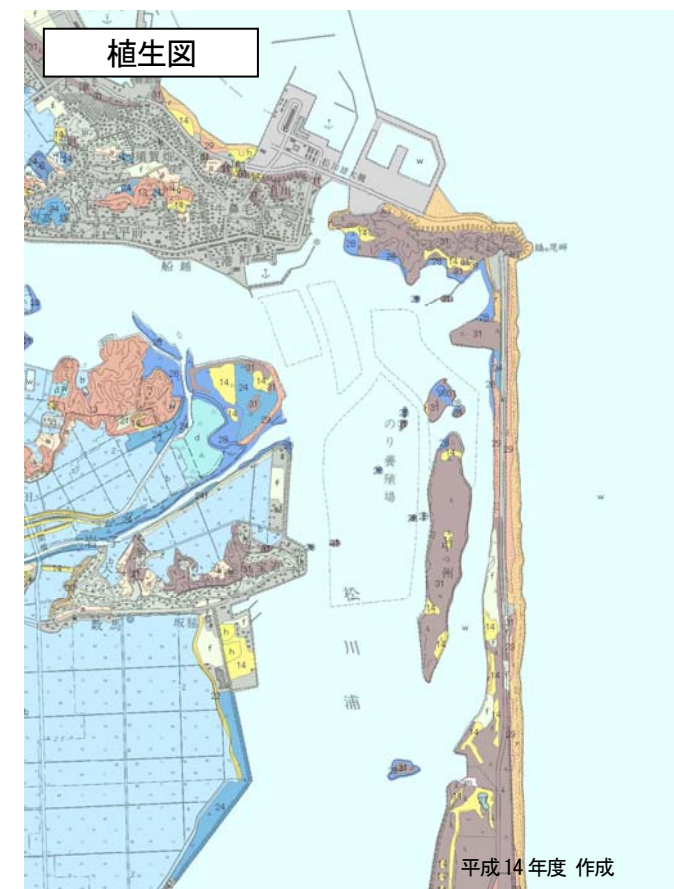
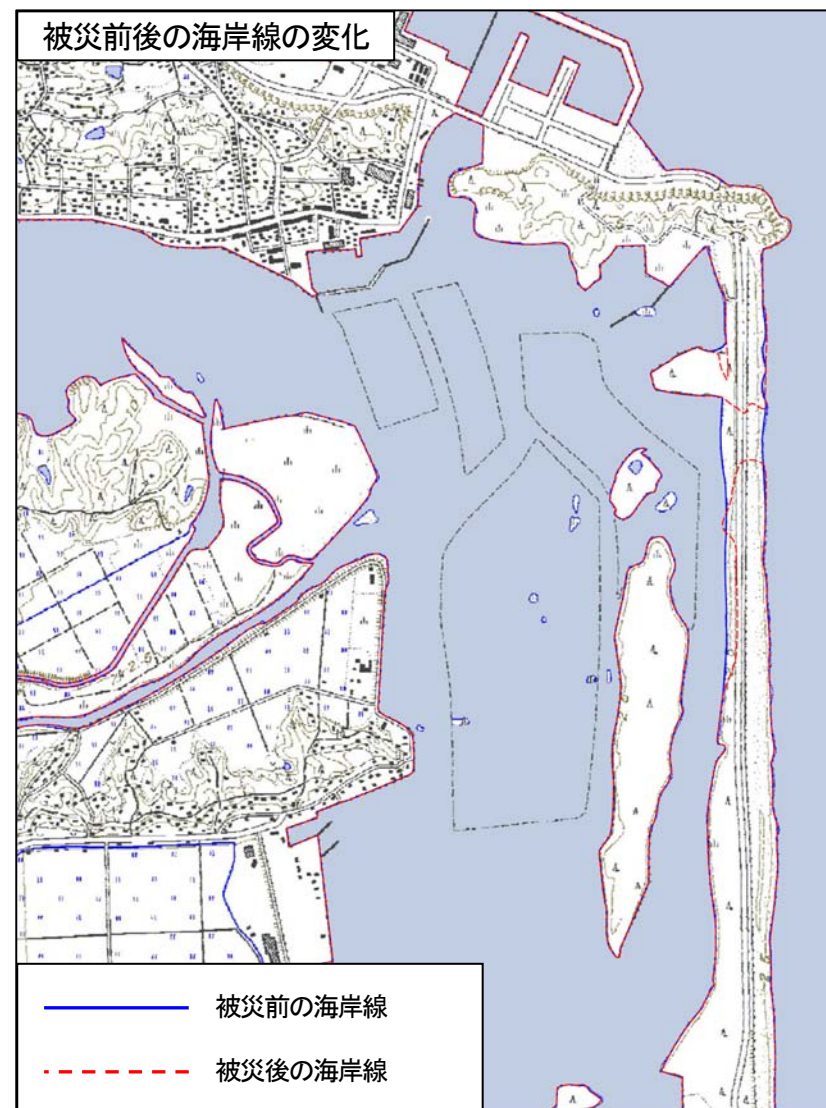
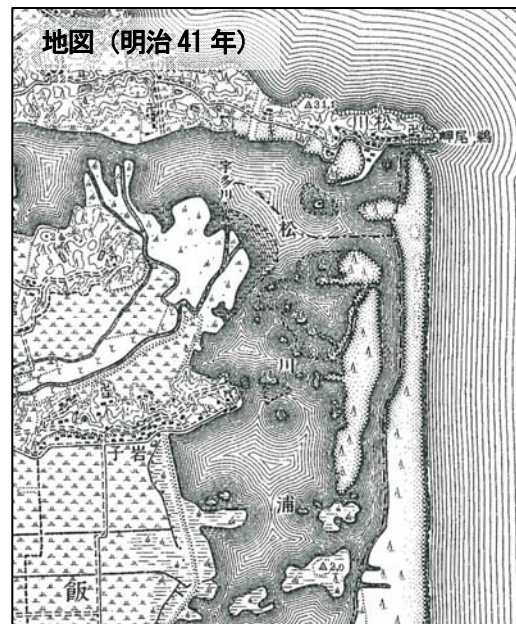


被災前の堤防の状況



地形・生態系特性

- ・ 明治時代の地図は現在よりも地形が複雑で、曲線的な地形が形成されていた。また、岬と砂嘴は陸続きになっていなかった。
- ・ 海岸付近に見られる植生は、主にクロマツ林であり、部分的にススキ群落が分布している。
- ・ 被災後、一部の区間で冠水し、砂浜や既存の海岸堤防が消失している。



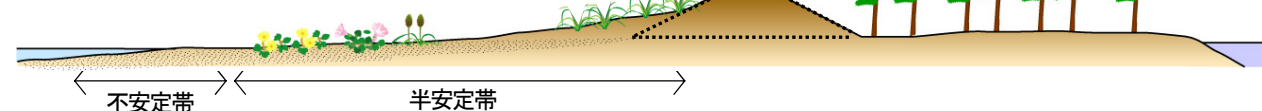
植生図 凡例（抜粋）
 凡例色 植生図凡例番号 統一凡例番号 統一凡例名
 14.250200 ススキ群落 (V)
 28.480000 塩沼地植生
 29.490000 砂丘植生
 31.540300 クロマツ植生
 33.540902 ニセアカシア群落

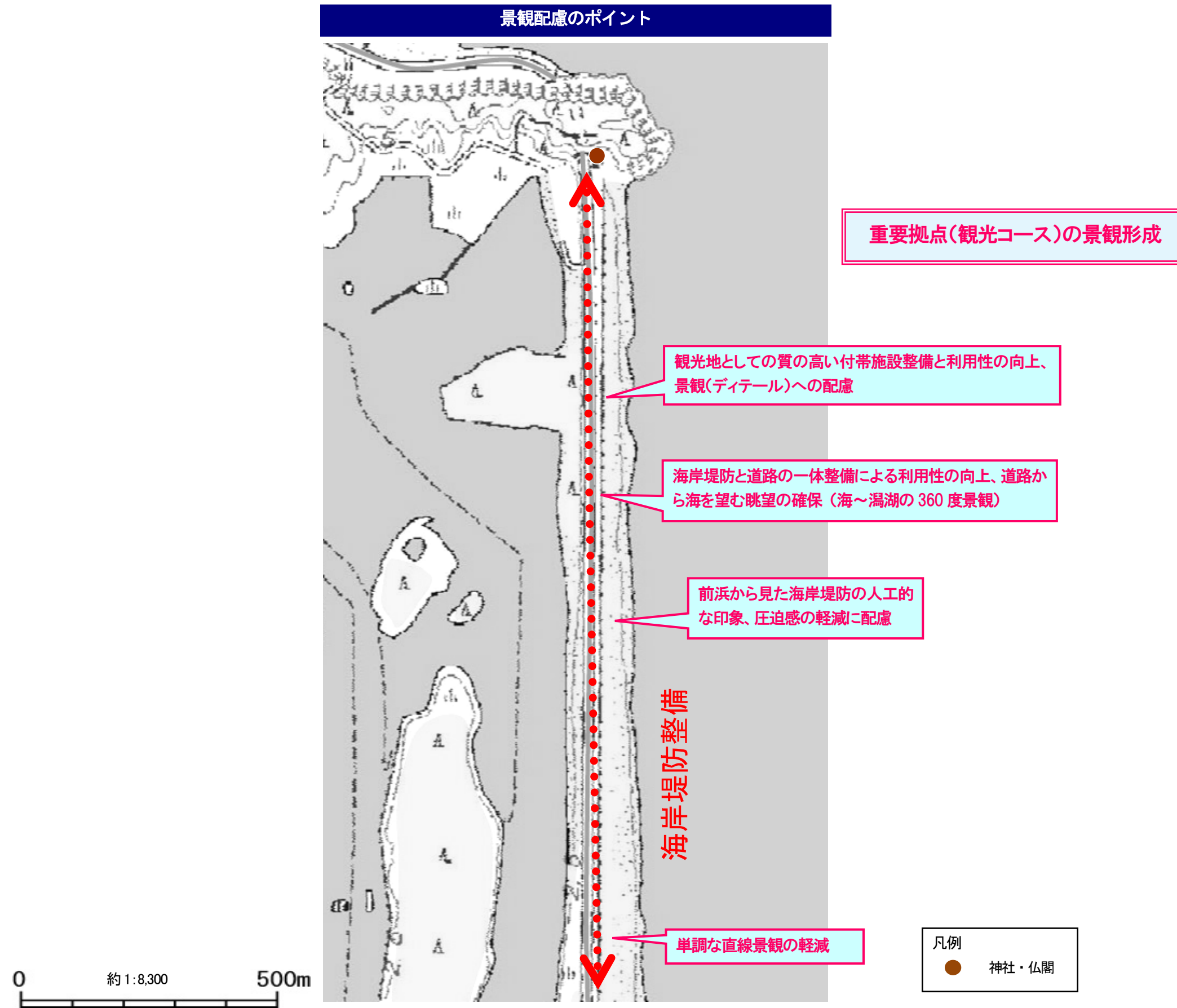
生態基盤

被災により既存の海岸堤防や海岸林（松林）は一部の区間で消失

海岸林（松林）

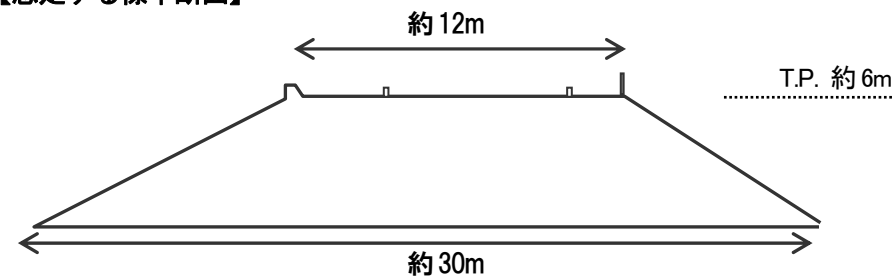
海浜植物群落





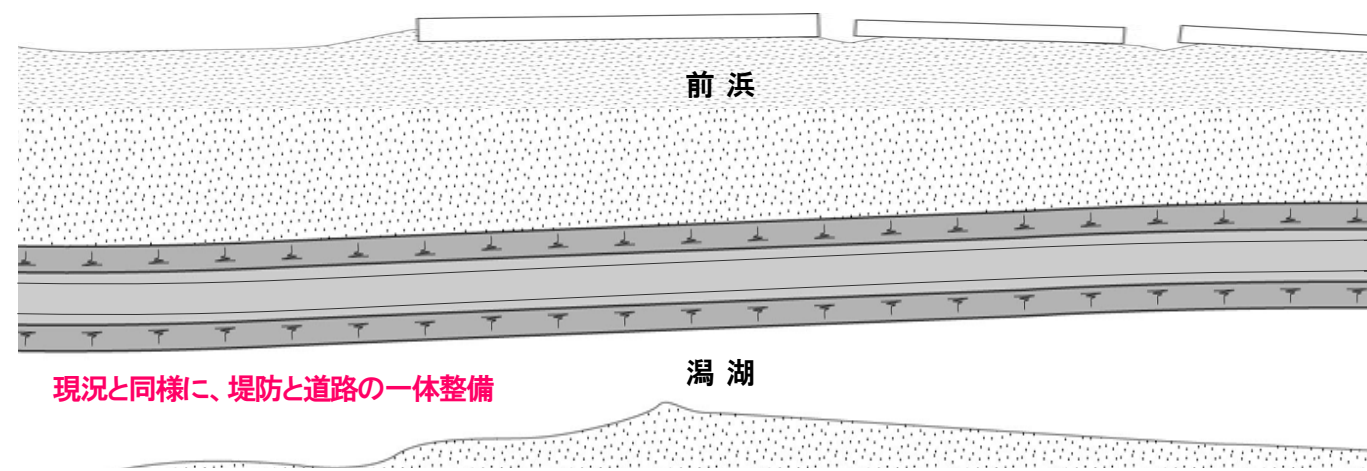
検討条件（施設構造）

海岸堤防【想定する標準断面】



- ・被災前の標準断面を踏襲
- ・高さ T. P. = 約 6m、堤防敷 W= 約 30m の大規模な構造体を想定
- ・天端は約 12m を想定
- ・法面勾配は表 1:2、裏 1.1.5 を想定
- ・表裏法面はコンクリート構造

海岸堤防【想定する平面図】



まちづくり計画

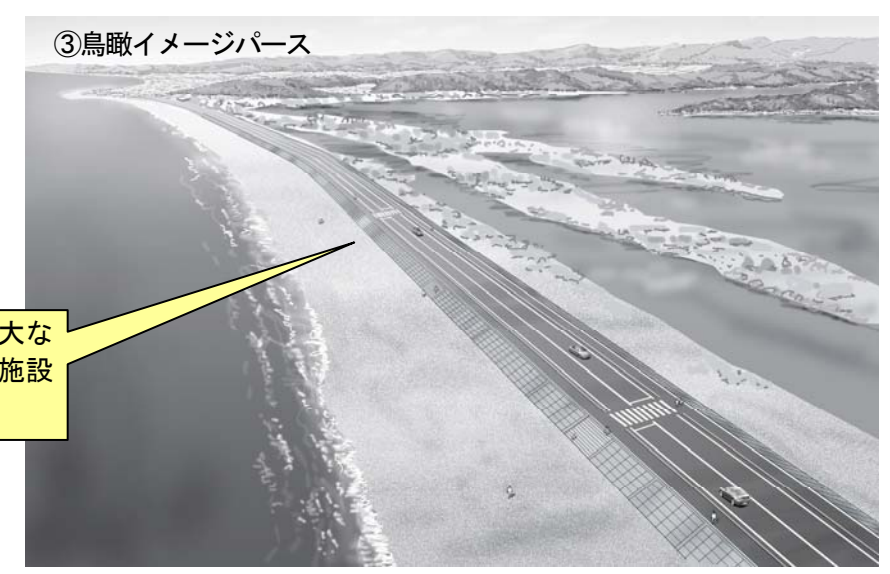
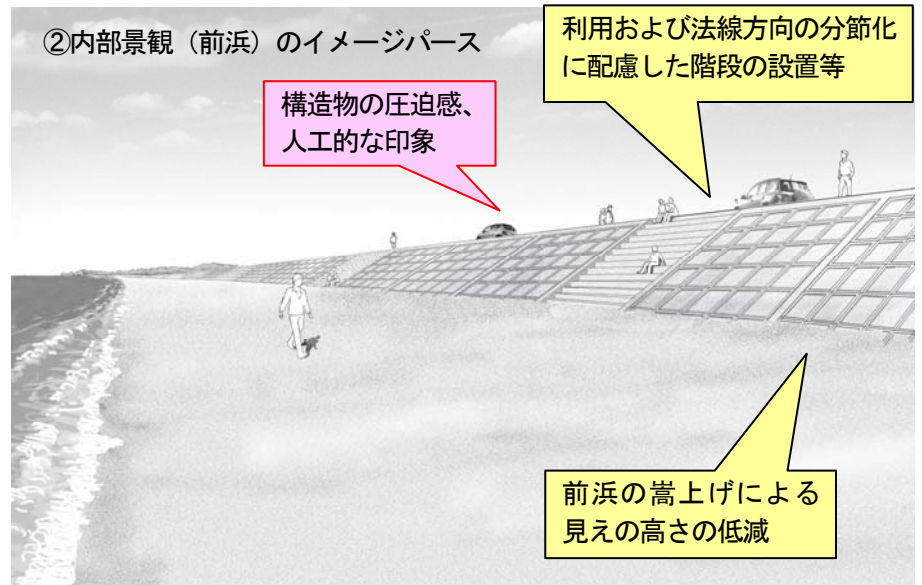
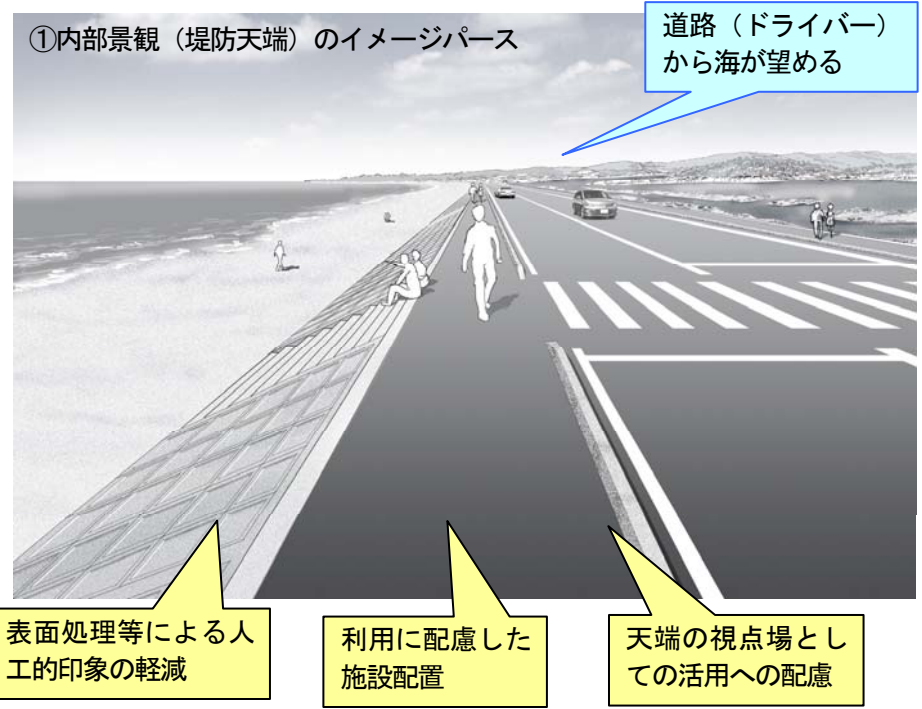
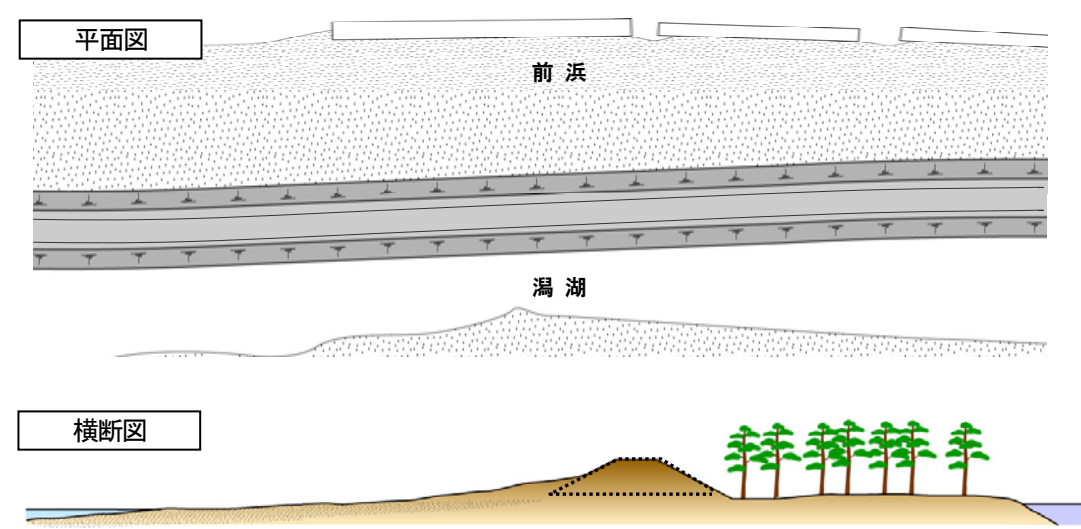
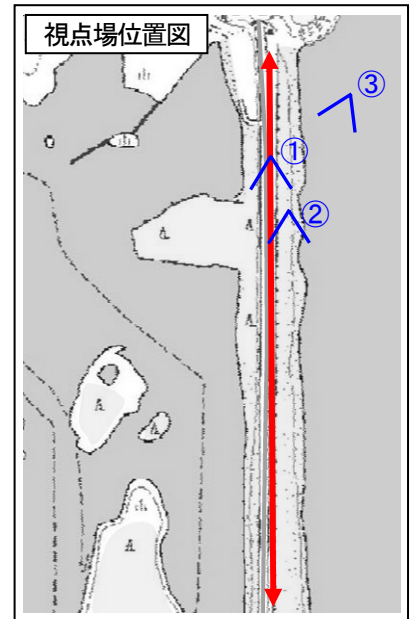
- ・津波浸水区域においては、新たな土地利用を検討する必要があるため、今後の防災対策や、住民意向などをもとに、今後の土地利用計画について検討を行います。
- ・津波浸水区域のうち、家屋流出等、甚大な被害を受けた地域については、職業領域と居住領域を分離する方向で、今後の土地利用を考えていきます。



出典：土地利用計画（案）

天端および法面利用イメージ





- 吹き出しの凡例
- 長所 (Long)
 - 短所 (Short)
 - 配慮事項 (Consideration)

	特徴・評価
視覚的景観	- 道路(ドライバー)から砂嘴の特徴的なパノラマ景観を望める。 - 直線的に連続する構造体が人工的な存在感を与えるため、表面処理の工夫等による人工的な印象、圧迫感の軽減等の配慮が必要となる。
地域性	観光コースとしてのトータルデザインに配慮するとともに、利用性向上に配慮する必要がある。
生態系	消失した前浜や海岸林(松林)の復元により、従来の生態系の復元を図る必要がある。
サステナビリティ	
コスト	重要拠点(観光コース)として、質の高い表面処理等を行った場合、コスト高になる可能性がある。